

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.185 2013.3.1

松本の春、見つけた！



松本まるごと博物館3館連携企画
「松本の春、見つけた！」

会期 2013年3月2日(土) ▶ 4月14日(日)

会場 松本市立博物館
重文馬場家住宅 / はかり資料館

押絵雛 御殿女中 / 天保11年(1840)

もくじ	誌上博物館 ◇ 松本まるごと博物館3館連携企画「松本の春、見つけた！」	2
	受け継がれるコレクション ～百瀬正堂のコレクション～	3
	博物館TOPICS ◇ 市民学芸員の会 民俗調査班始動！コトヨウカ・道祖神祭り調査	4
	ガイドコーナーはんでんぼく	4

松本まるごと博物館 3館連携企画 「松本の春、見つけた！」

はじめに

松本地方では、ひな祭りを月遅れの4月3日に行う風習が残っています。松本市立博物館と馬場家住宅、はかり資料館では、毎年この時期に松本の伝統工芸品である押絵雛の展示を行っています。松本の押絵雛は、江戸時代末頃にはすでに特産品になっていたもので、厚紙を切った型に綿をはさんで布で包み、貼り合わせた立体感のあるひな人形のことです。これまで各館独自に行っていた展示ですが、今年は、松本まるごと博物館3館連携企画「松本の春、見つけた！」として開催します。以下、各館の展示の見どころを紹介します。

松本市立博物館から

コーナー展示 月遅れのひな祭り「春を飾る押絵雛」

松本市立博物館は、約1,000点の押絵雛を所蔵しています。押絵雛のデザインを見てみると、内裏雛や歴史上の人物（軍記物）を題材にしたものが多く、他にも歌舞伎、子ども風俗、伝説など様々な種類の押絵雛があります。そのなかでも今回は、宝船や七福神などの吉祥をモチーフとした押絵雛をピックアップして展示します。展示をご覧いただいた方に春の訪れとともに福が訪れるように、と願いながら展示を行います。ぜひご覧ください。



押絵雛 (左)大黒 (右)恵比須

馬場家住宅から

押絵雛展「古民家で楽しむひな祭り」

馬場家住宅では、期間中、松本市立博物館の所蔵品約40点の展示の他、市内人形店の協力も得て、主屋全体が華やいだ場に変わります。馬場家住宅での見どころは、江戸時代末期に建てられた古民家の中で、古い押絵雛を間近に鑑賞できることでしょう。また、裏面に付けられた竹串を木の台に差して飾ることが多い押絵雛ですが、額入れのものや、段飾り15人揃い、掛軸形式など、様々な形態の押絵雛を



昨年の展示風景

ご覧いただけます。さらに、近年に復元された押絵雛も展示しますので、明治時代を中心に製作された作品と見比べる楽しみがあります。

はかり資料館から

押絵雛展「町屋で楽しむひな祭り」

はかり資料館では、子どもの風俗をモチーフとした押絵雛など約30点を、第3展示室「旧三松屋蔵座敷」の和室を中心に展示します。

はかり資料館のある中町は、江戸時代には城下町松本の親町として栄え、今も“蔵のある町”、“民芸の町”として多くの市民や観光客に親しまれ、賑わっている通りです。

かつて松本の子どもの楽しみのひとつであった伝統行事、押絵雛のひな祭りを、明治時代の土蔵造りの商家(町屋)、はかり資料館でご覧ください。



押絵雛 開智学校授業風景(複製)

関連事業

3月24日(日)には、3館を巡るバス見学会を開催します。

また、4月3日(水)には、3館で甘酒を振る舞います。無くなり次第終了となりますので、早目のご来場をお待ちしています。

(松本市立博物館 学芸員/宮井 博樹)

(馬場家住宅/門野 博之)

(はかり資料館/原野 瑞江)

松本まるごと博物館3館連携企画「松本の春、見つけた！」

[会期] 3月2日㊦～4月14日㊦ [会場] 松本市立博物館・馬場家住宅・はかり資料館

受け継がれるコレクション ～百瀬正堂のコレクション～

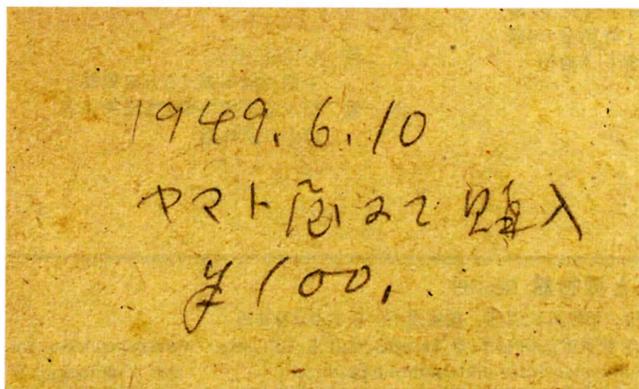
松本市立博物館では、2月9日(土)から3月24日(日)の会期で、特別展「ダルマの人 百瀬正堂—第3代松本市長のまなざし—」を開催しています。今回の特別展では、松本市の3代目市長である百瀬渡の功績と、渡が正堂の雅号で描いたダルマ絵を中心とした絵画等を紹介しています。皆さん、ご覧になっていただけたいでしょうか？

ここでは、正堂の資料がなぜ残ったのかに注目して記したいと思います。

資料をご提供いただいた渡の令孫、故百瀬深美氏のお宅には、正堂作の掛軸・扇面・色紙を中心に、正堂が蒐集した政治家や著名な作家の書画骨董などからなる膨大なコレクションが保管されていました。それらの資料の調査・整理を経て、正堂の作品を中心にピックアップをして展示を構成しました。展示に向けた作業をしていた頃、「よくこれだけの資料が大切に保管されていたな」ということを思いました。正堂の死後、約70年が経ちますが、現在でも1,000点を超す資料が残っています。これだけでも貴重なことですが、特筆すべきは、正堂自身の作品が多く残されていることです。

正堂の資料は、死後に多くのものが散逸してしまったと聞いています。正堂が亡くなったのは、終戦の昭和20年12月ですから、戦後の混乱で散逸してしまったものもあったのでしょうか。また、正堂は人への贈呈用として絵を描くことが多かったので、自身の絵は手元にはあまり残らなかったと推察されます。しかし、正堂コレクションの中には、正堂自身の絵が約70点残っています。これらの資料は、どうして深美氏の手元に残ったのでしょうか。

そのヒントとなるのが、〈図1〉の写真の文字です。これは、正堂の色紙の裏に鉛筆で書かれたもので、「1949.6.10 ヤマト屋にて購入 ¥100」とあります。1949年は昭和24年ですから、正堂の死後にこの色紙は「ヤマト屋」で買われたこととなります。ヤマト屋のラベルが貼ってある色紙もあり、そこ

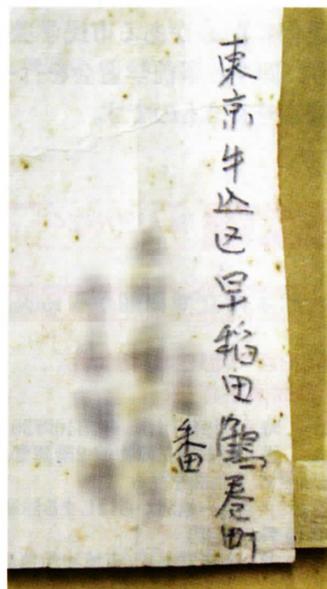


〈図1〉色紙の裏に書かれたメモ書き

からヤマト屋が東京都神田にある本屋であることがわかりました。この色紙は正堂の死後に、東京の本屋で購入されていたのです。購入者の名前は書かれていませんが、おそらく正堂の息子で、深美氏の父である渥氏でしょう。

裏に「渥所蔵」と書かれている図2の掛軸には、「東京牛込区」の個人の住所と氏名がメモ書きされており、渥氏が東京の人物からこの掛軸を手に入れたと推察できます。他にも、讚に「高山君へ」と書かれたものがあるように、明らかに他人に贈呈された作品も正堂コレクションに含まれています。

また、渥氏だけではなく、深美氏も県内外に出かけて、正堂の作品集成に努められたと聞いています。



〈図2〉掛軸のメモ書き

このように親子2代にわたって、正堂の資料を集めた努力が、今回の特別展を誕生させたのです。渥氏が美術学校出身、深美氏も西郷孤月の顕彰活動に参加するなど、芸術に対する造詣が、親子ともに深かったことも影響しているのでしょうか。しかし、なにより、父であり、祖父である渡への尊敬や愛情といった思いから、渡の資料を蒐集していったのではないのでしょうか。

現在、博物館資料の中核の一つとなっている、胡桃沢コレクションや石曾根コレクションも、ご子孫の方々が代々大切に保管してきたおかげで現在まで残ってきたものです。それが博物館へ入り、こうして広くご紹介できるのです。今回の正堂コレクションも、故百瀬深美氏のご厚意によって博物館にご提供いただきました。資料は一度失われてしまうと、二度と同じものは手に入りません。他のコレクションのように、これからもこうした資料の紹介に努めていきたいと思っています。また、受け継がれる資料の保管等のお手伝いもできればと思っています。

(松本市立博物館 学芸員／遠藤 正教)

特別展「ダルマの人 百瀬正堂—第3代松本市長のまなざし—」

〔会期〕2月9日(土)～3月24日(日) 〔会場〕松本市立博物館

市民学芸員の会 民俗調査班始動!コトヨウカ・道祖神祭り調査

松本まるごと博物館では、文化による「まちづくり」「ひとづくり」を市民とともに協働する市民学芸員制度があります。現在、平成18年度から始まった市民学芸員養成講座を修了した約70名が活動しています。

これまで実施してきた市民学芸員養成講座では、国の選択無形民俗文化財に指定されているコトヨウカの調査を行ってききましたが、今年からは市民学芸員の会として装いを新たに民俗調査を行いました。その内容は、民俗に関心がある市民学芸員が、コトヨウカ・道祖神祭りに関する事前学習会を行った後、実際に現地に行つて調査を行うものです。

対象もコトヨウカだけでなく、道祖神祭りへと幅を広げています。今年度は入山^{ふなつけ}辺舟付と今井下^{しもしんでん}新田のコトヨウカに加え、島立永田の道祖神祭りなどの調査を行いました。この成果は後日、博物館での展示として紹介することを目指して日々活動しています。



島立永田の調査

(松本市立博物館 学芸員/宮井 博樹)

ガイドコーナー はんでんぼく

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

第23回 学都松本・博物館
「勸館楽学」対談

日時 3月9日(土) 午前10時30分～正午
会場 松本市立博物館 2階講堂
テーマ 「地図を視る
—地図からはじまる回顧と創造—」
参加料 200円
対談者 柳澤孝夫氏(市博物館協議会委員)

第15回 学都松本・博物館
「学芸員 松本モノ語り」

日時 3月16日(土) 午前10時30分～正午
会場 松本市立博物館 2階講堂
テーマ 「お城の見方・楽しみ方、
行ってみよう松本の山城」
参加料 200円
語り手 宮井博樹(松本市立博物館学芸員)

第24回 学都松本・博物館
「勸館楽学」対談

日時 3月23日(土) 午前10時30分～正午
会場 松本市立博物館 2階講堂
テーマ 「博物館資料は誰のものか?」
参加料 200円
対談者 吉澤五美氏
(県自然観察インストラクター)

山と自然博物館から ☎0263-38-0012

ボタニカルアート講座

日時 3月17日(日) 午後1時～4時
会場 山と自然博物館
講師 山田 恭子氏
定員 15名(定員になり次第締め切り)
参加料 300円
申込み 3月5日(火)から受付

時計博物館から ☎0263-36-0969

春休みネジ巻き見学会

普段は見ることができない開館前に時計技師が行っている古時計のネジ巻きや時刻合わせの様子を、解説をまじえながら公開します。

日時 3月16日(土)～3月21日(木)
(18日は休館日)
各日午前9時～9時40分
会場 時計博物館常設展示室
参加料 無料/入館には通常観覧料が必要
(大人300円、小・中学生150円)

松本民芸館から ☎0263-33-1569

S Pレコード コンサート

蔵づくりの民芸館でS Pレコードのなつかしい音色をお楽しみ下さい。

日時 3月2日(土) 午後1時30分～3時
会場 松本民芸館
定員 40名(要予約)
参加料 無料/入館には通常観覧料が必要
(大人300円、中学生以下無料)

旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

第115回 サロンあがたの森

「どうなる、日本の経済
—私達の生活への影響—」

話題提供 太田 勉氏
(松本大学総合経営学科長・教授)
日時 3月9日(土) 午後1時30分～4時
会場 あがたの森文化会館1～5教室
参加料 無料(申込不要)

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

松本の子どもの短歌・2012作品展

会期 3月20日(水)～4月14日(日)
会場 窪田空穂記念館会議室
観覧料 作品展のみ無料

春休み窪田空穂記念館囲碁教室

日時 3月21日(木)～23日(土)
午前10時～正午
会場 窪田空穂記念館(生家)
対象 小中学生
定員 30名程度
参加料 無料
指導 囲碁普及ボランティアグループ
申込み 電話かFAXで窪田空穂記念館へ
FAX.0263-48-4287

松本まるごと博物館3館連携企画

「松本の春、見つけた!」関連事業

バス見学会「ぐるっとひな祭り号」

日時 3月24日(日)
午前10時～午後3時30分
見学先 松本市立博物館、馬場家住宅、
はかり資料館ほか
参加料 200円
申込み 3月13日(水)午前9時から電話で
松本市立博物館へ

甘酒サービス

日時 4月3日(水)
午前10時～無くなり次第終了
会場 松本市立博物館、馬場家住宅、
はかり資料館

あとがき

わが家のおひなさまは、今回特集の押絵雛です。美しいのはもちろん、動きがあって楽しく、そしてなにより飾り付けが簡単。もちろん収納時に場所いらず。押絵雛なら気軽に毎年のひな祭り準備ができるのです。

(K.U)

あなたと博物館 No.185

発行年月日/平成25年3月1日 編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133 URL:http://www.matsu-haku.com
e-mail : mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp 印刷 川越印刷株式会社